

令和4年度 修文学院高等学校 学校評価

【教育目標】

知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。

【グランドデザイン 80年の歴史・伝統に、新たな息吹を吹き込む「修文新時代」構想】 ～「不易と流行」、「統一性と多様性」のバランスをどう図るか～

【目標領域1】 文武両道・全人教育（人間力の育成）

- 1 学院訓「推謙・明朗・強健」人間力育成の不易の価値と位置づけ、あらゆる機会を通して、その具体化を図る
- 2 男女共学化・新学習指導要領実施のもと、多様な生徒に対応できる「個別最適な学び」を実践する
- 3 人生100年時代に相応しい「学びの姿勢（どう学ぶか）」を身につけ、学びの土台をつくる
- 4 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
- 5 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

【目標領域2】 教育は人なり（教師力の向上）

- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド」を各教科で確立し、徹底させる
- 2 教員の授業力向上

【目標領域3】 地域に信頼される学校（地域連携・高大連携の充実）

- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
- 2 高大連携の充実

【今年度の重点目標】

- 1 社会人となるための基本を身につけさせる —「あ・じ・み・そ」の徹底—
- 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる —学力の保証—
- 3 進路実現の充実を図る —進路指導の充実—
- 4 心の教育の充実・自立心を育てる —心の学校—
- 5 防災教育を推進する —安心・安全な学校—
- 6 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる —開かれた学校—

※達成度は4段階評価

- 4: 大変よくできた。
- 3: まあまあできた。
- 2: あまりできなかった。
- 1: 全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・朝の徹底反復学習を実施する。 ・CP活用による計画と振り返りを行う。	・R80を活用しながら生徒の相互評価や教師評価、全体評価を実施する。 ・実施にあたってはロイロノートやiPadを利用し、今年度から導入されたICT機器の運用頻度を高めていく。	・反復学習の継続 ・iPadの活用頻度はとても高く、多くの教科でICTを活用した学習指導が展開されている。また、連絡事項や資料の共有など、目的やタイミングに応じた利用ができるようになった。	・朝の反復学習では、国語・英語の学習を中心に、漢字や単語、要約、速読など、多岐にわたる学習を行った。 ・ICT機器の運用については授業内、授業後、長期休暇中など、日常的な活用が定着した。	4	・反復学習でもICT機器を活用した学習アプリの活用を深めていきたい。
	視野の拡大と可能性の追求	・ベネッセ総合学力テスト(1・2年)や全統模試を実施する。(3年) ・普通科実力テスト(1～3年)、普通科夏休み講座(1・2年)を実施する。	・模試データによる客観的数値データの活用と共有および蓄積する。(進路課連携)	・今年度より、入学生全員が進研模試を受験し、受験結果を可視化した。7月～11月(結果待ち)→2月の成績推移を見ながら学習指導および進路指導を充実させていきたい。	・進研模試のデータを活用した校内資料を作成した。今後も校内比較、過年度比較、他校比較を含めて、個人懸念資料として運用を進めていきたい。	4	・校内模試データを各教科、授業担当者と共有し、それぞれの立場から同じ目標で大学進学についての話題が出るようにデータ活用を進めていきたい。
	難関大への挑戦	・「進学実績を向上させよう！」と言える職員集団を作るとともに、生徒の意識改革に着手する。	・理数教育の充実を図るとともに文理選択や志望校選びに対する体系的指導を蓄積していく。	・11月模試成績上位者向けに国立大学志望者集団を作っていく取り組みに着手していく予定。 ・1年生には文理選択に関わるホームルーム活動をクラスで行ってきた。その後の文理選択ガイダンスを通して、生徒が適切な進路選択ができるように導いていきたい。	・11月進研模試の成績をもとに国立、難関私大への志望者集団を作るプロジェクトを進行中である。1月模試の成績確認後、令和5年4月より、活動開始予定である。文理選択については仮登録を経て1月中旬に本登録を完了した。	3	・クラスの枠を超えて難関大学への合格を目指す高い進学意識を持った集団作りを取掛かる。
	人間力の育成	・修文メソッドにICT(学び方)・探究(考え方)・SDGs(社会との関わり方)を加え、普通科の学びの特色化を図る。	・学力のみならず、主体性・協調性・振り返る力を育てていながら、互いの違いが尊重でき、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持できる力を育む。	・普通科で学ぶ生徒が目指す10の学習者像を決め、クラス内に掲示している。「自走」できる生徒の育成を合言葉に人間力を育てていきたい。	・個人一人ひとりの個性を尊重しつつも、互いを尊重できる集団、そしてクラス集団としての強さを発揮できる生徒に成長させていきたい。	3	・今年度引き続き、普通科生徒が目指す10の学習者像を意識し、学力と人間力を高めていきたい。
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実 ・緻密な進路指導 ・個人面談の充実	・組織的な検定補習によって、卒業時に全員が技術顕彰の受領を目指す。 ・進学希望者には、個人面談を実施するとともに、資格を利用した推薦制度の紹介をする。 ・就職希望者には、個人面談や面接練習等を実施し、きめ細やかな指導をする。	・おおよそ92%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・3年生の進学者・就職者の指導については、学科で担当者を割り振りし、組織的に取組んだ。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	・96%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・どの学年においても検定取得に向けて、積極的に取組むことができた。 ・3年生全員が、納得のいく進路選択ができた。就職者が一社目全員内定は特筆に値する。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	4	・次年度は、全員の技術顕彰受領を目指したい。 ・次年度においても、積極的な検定取得に取組ませたい。 ・次年度においても、納得のいく進路選択ができるような指導をしたい。 ・次年度においても、個人面談を充実させ、きめ細やかな指導をしたい。
	社会人基礎力の育成とICT教育の充実	・報連相の徹底 ・凡事徹底(挨拶・時間・身だしなみ・掃除) ・ICT教育の充実と活用	・報連相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・挨拶、時間、身だしなみ、掃除等の凡事徹底を通して、社会人基礎力を身につけさせる。 ・ICT機器やクラウドを活用し、最先端のICT教育を推進する。	・社会人に求められるコミュニケーション能力に力点をおいて日頃から指導を実施し、一定の成果を得ることができた。 ・BLENDを活用し、毎月末に学科アンケートを実施し、PDCAサイクルを促すことができた。 ・特に1年生の商業の授業においては、iPadやロイロノートを活用した授業展開を実施し、一定の成果を得ることができた。	・あらゆる事柄の指導において、報連相や凡事徹底を心がけたことで社会人基礎力が身についた。 ・BLENDを活用し、毎月末に学科アンケートを実施し、過去の自分・今の自分・未来の自分と向き合うことができた。	3	・社会人基礎力は、どの時代においても求められる部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。 ・ICT教育は、現代において求められる流行の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。
家政科	基本的な生活習慣と基礎学力の定着	・毎日の家庭学習や反復学習への取組み ・「報・連・相」と「あ・じ・み・そ」の徹底	・毎日の家庭学習を通して、計画的に学習に取組む習慣を身につけさせる。 ・「報・連・相」の大切さを意識させ、社会人となるための基本を身につけさせる。 ・ファッションショーを意識し、美しい開始や終了の挨拶ができるようにする。	・1・2年生は毎日家庭で学習する習慣を身につけさせるよう、学年で統一して達成目標を決め取組むことができた。 ・1年次から、ファッションショーを意識させ、始業・終業の挨拶に取組ませたが、まだまだ定着したとは言えない。	・基礎学力の定着を目指し、1・2年生は学年統一で家庭学習に取組むことができた。 ・挨拶の徹底に取組んできたが、十分とは言えない。	3	・次年度は、朝の反復や家庭学習でも作品製作にかけられる時間を確保し、家庭科科目の知識や技術の習得を目指す。
	専門教科の技術の習得	・作品完成までのプロセスの重視 ・系列大学や系列幼稚園との連携 ・地域との連携	・1年次から、提出期限を意識した作品製作に取組ませ、3年次のファッションショーに向けての基礎を培う。 ・大学や幼稚園での講義や実習の機会を多くもち、保育をはじめとする各分野への興味関心を高める。 ・地域社会のイベントに積極的に参加させ、地域における自分たちの役割について意識させる。	・多くの生徒が提出期限を意識し、作品製作に取組んでいたが、一部期限を守れない生徒もいた。今後も引き続き指導していきたい。 ・昨年度同様、「尾州織ファッションショー」など、外部イベントに積極的に参加することで、地域における本校の役割について考える機会を持つことができた。	・地域のイベントに積極的に参加し、本校の取組みを知っていただく機会を持つことができた。 ・授業やファッションショーを通して、系列幼稚園との連携をとることができたが、系列大学については、施設の利用のみで、人的交流をすることができなかった。	3	・次年度も地域のイベントには積極的に参加していきたい。 ・系列大学との連携は、まずは保育分野において、大学での講義を受ける等、徐々に増やし、再来年度の新课程におけるコース選択につなげていきたい。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
食物調理科	調理技術と知識の習得	・挨拶、礼儀、時間厳守など基本的な生活習慣の徹底 ・衛生管理の徹底	・授業後に調理の練習ができるように、調理実習室を開放する。 ・「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躰」を意識した指導をする。	・授業後に技術力向上のために、調理実習室を開放し、練習する場を提供することができた。 ・テスト中にロッカーの点検をし、衛生管理に努めた。	・学びの姿勢が身についた生徒が多くおり、基礎学力や調理技術が向上した。 ・毎週身だしなみのチェックをしたが、衛生管理を意識した指導の徹底に苦慮した。	3	・授業後の調理室を開放する日を増やして、生徒のさらなる調理技術向上を図りたい。 ・衛生管理を意識した指導を根気よくしていきたい。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・積極的に地域への広報活動を実施する。 ・コメダ珈琲店と密に連絡を取り合い、共同企画を立案する。	・名飲ブランドホテル様と3年連続おせち企画を実施し、『いちらぶ 花おせち』を販売した。 ・3年ぶりとる『おもてなしモーニングCAFE』をbanyan tree様とメニューの共同開発をし出店した。 ・コメダ珈琲店様とのコラボ企画を現在進行中である。	・コメダ珈琲店と連携して、『シュウコム珈琲店』をして、生徒が考案した『シノノワールカッター』を2日限定で一宮市のコメダ珈琲店全5店舗で販売した。 ・地域に根づく学科をめざし、地元企業と連携することができた。	4	・外部との連携企画は長期間に渡って準備するため、対応できる組織を作っていく。 ・新たな企業と連携できるように働きかけたい。
総務課	防災教育・安全教育的の推進	・防災教育の推進、防災マニュアルの周知徹底	・危機を予防するために、安全点検・防災訓練・教員研修を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	・4月に避難訓練、9月にシェイクアウト訓練、10月に防災講話(1年生対象)を行った。また、11月には教員対象の緊急講習を行い、心肺蘇生法・AEDの使用法・熱中症等の応急処置・止血方法を学ぶ予定だ。 ・今後も安全点検を定期的に行い、迅速に修理改善に努める。	・生徒は、防災についての訓練・講話、また、全教員が緊急時に落ち着いて対処できることを目的に、11月に救急法の教員研修を行い、防災や安全教育的の推進を図った。 ・月末の安全点検を行い、修理改善に努めたが、危機管理体制の徹底が十分とは言えない。	3	・教職員、生徒ともに、校内の安全対策、災害への防災意識を高め、安全行動が的確に行える危機管理体制を構築する。
	PTAや同窓会組織の充実	・PTA活動の主体的な取組みへの支援 ・同窓会活動の充実やネットワークづくり	・校務支援システム(BLEND)やホームページを通して取組みを紹介し、協力連携を図り、PTAや同窓会の活動を主体的・活発的に行うため、提案や支援をする。	・今年度は5月にPTA総会を行い、PTA活動を始動した。文化祭PTAバザーはコロナ感染拡大防止のため中止となったが、その後のPTA行事は、順調に行われた。 ・同窓会総会は5月に行い、研修旅行も実施された。	・PTA活動は、3年度には行われなかった研修旅行、評議員会、卒業式の役員参加が行われた。 ・同窓会報第一号の発行を令和5年4月に定め、準備をすすめた。	3	・PTA行事を増やしたり、創立100周年に向けて同窓会組織の基礎固めをしたりして活動を充実させていく。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・学習コンクールで60点以上、到達度テストでの運動課題配信を促し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験を積極的に受験させ、入試に対応できる能力を身につけさせる。	・事前対策や土曜日補充を実施することや、基礎学力定着に向けた教員・生徒の意識の向上が個々の学力定着につながっている。	・1、2年生対象の学習コンクールは、ほとんどの生徒が60点以上であった。また、全学年対象の到達度テストでの運動課題に期日までにほぼ全員が完了した。	3	・学習コンクールに代わって、各教科・各学科での基礎学力向上に向けた指導を徹底する。
		・英語教育と理数教育の充実	・授業以外にECCとの連携、オンライン英会話、語学研修を通し興味関心を抱かせ、英語力向上を図る。 ・教員、施設、設備を充実させ、理数教育を強化する。	・月一のオンライン英会話を実施し、3年振りにハワイ語学研修も実施した。 ・理数教育強化は、来年度に向けて着々と準備が進んでいる。	・オンライン英会話や語学研修を実施することで、英語を活用・運用する環境を構築できた。 ・理数教育強化は、来年度に向けて着々と準備が進んでいる。	3	・環境や行事を充実させるだけでなく、意欲向上そして実力養成につなげていく。
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取り入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。	・全教室にプロジェクターを設置したことで、黒板に投影しながらの授業が増えた。1年生は一人一台タブレットが壁い、スタディサプリやロイロノートの活用率が高まっている。	・チャイムと同時に授業開始が徹底できなかった。 ・Find,アクティブラーナーを採用したが、活用へつなげられなかった。	2	・率先垂範の姿勢で臨み、教員として大切な研究と修業に努める。
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	・図書委員会だより(Lメール)は3号まで発行し、図書委員の推薦図書や新着図書を紹介した。 ・国語科、家庭科の授業で図書館利用が目立った。	・図書委員会だよりは5号まで発行した。 ・国語科、家庭科は年間を通じて授業で図書館利用が目立った。 ・後期図書委員会の活動として、企画展を実施した。	3	・図書委員会だよりや新着図書案内を発行し、新しい本との出会いを促せるようにする。 ・図書委員による貸出・返却の活動を新年度から再開したい。
生徒課	・時代背景及び共学化に伴う生徒指導面の見直し	・学校生活を進めながら見直す点がないかを考える	・前例にとらわれず考察する。 ・生徒会との連携を図る。	・文化祭でのスマートフォン使用自由化は、生徒会主体で手にした権利である。今後も生徒会と連携を図り、校則の見直しをしていきたい。	・生徒会より「通学時に学校指定靴下以外の靴下を認めてほしい」という意見が提出されたことに対し、許可を出す方向で動いている。	4	・生徒会との連携を図り、民主的な運営をしていきたい。
	・教職員の働き方及び共学化に伴う部活動の見直し	・各部の登録者数による統廃合、新規部活動の検討	・生徒のモチベーションを下げないよう慎重に進める。	・硬式野球部、サッカー部、ダンス部、eスポーツ部、ハンドボール部を新設した。他にも既存の部活動に男子を受け入れ、活動することができた。	・新設部活動は順調に動き出すことができたが、統廃合については全く進めることができなかった。	3	・入学者の増加に伴い部員数が増加することが予想される。活動場所、顧問の問題もあることから統廃合も進めていきたい。
	・生徒主体となる学校行事、委員会活動の見直し	・生徒会との連携を強化する	・生徒が主体となるよう働きかけをしていく。	・企画、運営までを完全に生徒主体に切り替えることまではできていないが、体育祭で実施した教員リレーは、生徒会からの意見を尊重したものであった。	・学校行事に関しては生徒会主体といえる内容には程遠い。校則の見直しについては生徒会主体で動き出している。	3	・学校行事の企画段階から生徒の意見を取り入れていきたい。
進路課	・国公立大学、難関私立大学への合格者の増加	・学力の伸長と難関校へのチャレンジ精神を養う	・クラス指導や教科指導と協力し、学校全体で学力を伸長させる意識を共有する。	・クラス指導や教科指導により、一部の生徒は難関校の受験をしたが、国内全体の「年内入試への波」を押し戻せず、全体的には安全策を取る生徒が多かった。	力のある生徒は実力と志望の乖離があり、結果、公立の短期大学への合格者は出たが、国公立の四年制大学への合格者は出せなかった。	2	・難関大学に触れる機会を設定し、高い希望を持たせたい。
	・地元企業への就職内定	・地元で活躍する企業との連携を強化する	・地元の企業の社会での活躍を意識させ、郷土愛を醸成する。	・コロナによる影響も一段落し、順調に地元有力企業から求人があり、就職試験において全員合格を勝ち取ることができた。	地元の有力企業からの求人もたくさんいただき、また、就職希望者は全員第一希望の企業の内定を獲得した。	4	・感染症が落ち着いたため、インターンシップに積極的に参加させ、職業理解をすすめたい。
	・求人先の新規開拓	・共学化したことをアピールする	・コロナの感染状況を見ながら、できる限り企業訪問を積極的に行う。	・就職主任を中心に企業訪問を繰り返し、新規の就職先を開拓中である。	就職主任が積極的に企業訪問をしたことで、男子を含めた生徒数の増加に対して、今後期待しているという声を多数いただき、手ごたえを感じている。	4	・企業との関係を密にするために、引き続き企業訪問を積極的に行いたい。
広報課	情報発信と広報活動の充実	・ホームページ、SNS、学校案内、広報活動を通して、本校の魅力を継続的に発信する	・ホームページ、SNS、学校案内等、より一層見やすく魅力的なものにしていく。 ・学校説明会、入試説明会等のPRをより一層拡充し、本校の魅力を発信する。	・ホームページに加え、facebook・Instagramといった情報発信を一新し、現在継続的に活動中である。また、共学化に伴って、メディアで取り上げられる機会も増えた。	・ホームページ・You Tubeを公式発信のソースとし、本校の魅力はfacebook・Instagramで発信し続けた。その結果、読者が得たい情報の分類が明確となり、より一層見やすく、内容も拡充した。	4	・新しいSNSの運用方法を検討し、より一層拡充した広報活動を開拓することで、イベントでの集客率を増加させたい。